



114
A 802
4

秘

秋訊第一号

馬尼刺香港派遣第八回報告

当地方ニ於ケル米西兩軍及互徒ノ状況ハ前回報告以後異
觀ヲ呈スルコトトモ英艦アリバシノ香港ニ向フアルヲ以テ
二三ノ瑣事ヲ記スルコト左ノ如ク

七月四日 馬尼刺市給水

カントラニ水源地敵ノ手ニ落ルヤ市中ノ給水ハフサンアアズル
モノテ野水地ノ野葦サレタル水ニ依テノミ供給セラレタルヲ以テ
此水ニミテ及クンアラハ市中水道ハ水ヲ得ル能ハズ聞ク處
ニ依レハ野水池現量ハ深サ一尺餘ニミテ二日以外ハ給水ヲ
ナス能ハズト云フ

本日知港事ノ申據ノ日本領事ニ奉リ給水法ノ善後



策ヲ謀ル者アリト見ル

午前四時十五分ワサカタレ方面ニ砲聲ヲ聞ク
七月五日 市外火災

午前一時貯水地方而シテ一時々銃聲ヲ聞ク暫時
シテ火火起リ二時半分鎮火傳聞ニ仍シテ西軍コシカ
ハレノ全村ヲ燒クノ致約五十九戸ナリト云フ

午前零時陸上公園ノ奥ヨリ方面ニ火災ヲ認ム
全四十分陸上銃聲ヲ聞ク

午前九時二十分ワリノ子分間ヨリ方面ニ列敷銃砲聲アリ
午後十一時十五分東北東ヨリ方面ニ火災起ル
ト據ルニ日本領事館ノ南方向ノ村ニ火災起ルノ事アリト云フ
ト據ルニ瓦ノ面ニ伴ル村ニ西軍ノ燒掛ヒタルナリト云フ
七月六日

午前三時ワリバリノ火災鎮火

全 十時半分灣外ヨリ入り来リタル汽船(高船)ニテ約
七八百噸大ノモノ一隻「カビテ」沖ニ於テ東ノ巡邏船
「カヤ」ト名ニ正午頃其「カビテ」ニ入港スルヲ見ル此汽
船ハ國旗ヲ掲ケル其位置ニ自旗ヲ掲ケ居タリ西國
船スルモノナラシ

正午頃ヨリ二時頃迄「トンドウ」方面ニ音リ断續銃聲ヲ
聞ク

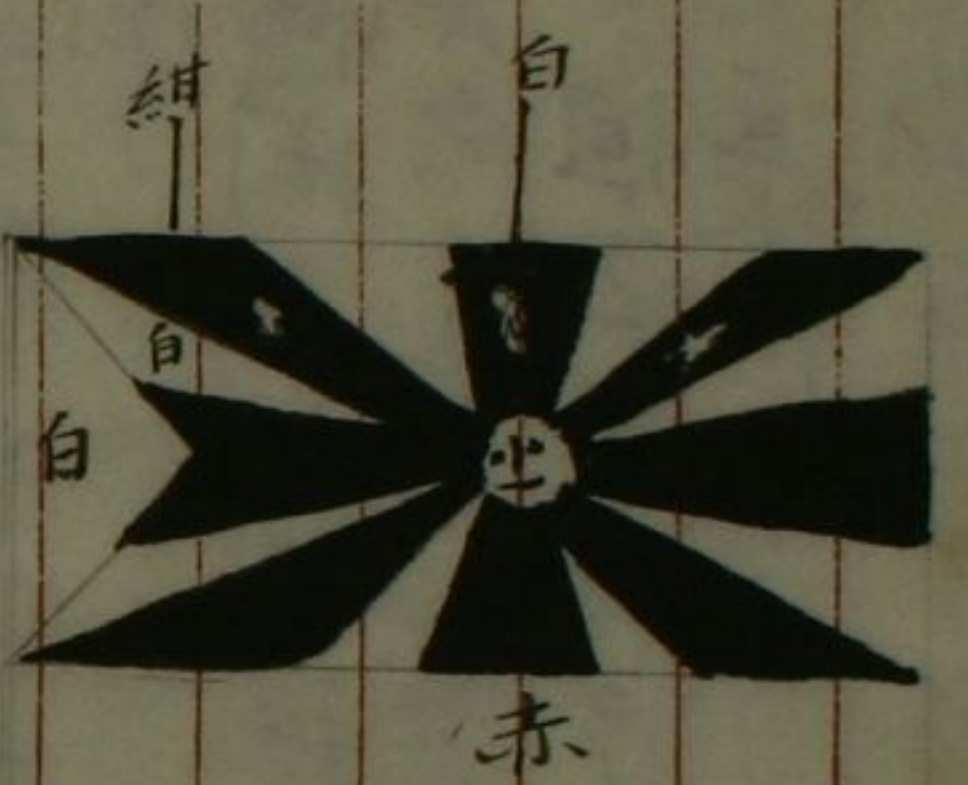
傳聞ニ依ルニ左記ノ旗章現今及後使用ノモノニテ現ニ
ワシノ地方ニ母ノ之ヲ掲揚シ居レリト云フ

但海上ニ於テ掲ケ居ル旗五竿ハ嚮キニ松島艦
長報告ノモノニ異ナラズ

海軍

六日ノ攻撃ヲスビツクレノ西方カサンバレント稱スル地方ノ人種ト異ナリ標幟ヲ以テ名アリ此人種中凡ニ四名被徒ノ内ニ加リ来リハ多数ハ兵器拒り帯タルニヨリ此等凡四百名一昨之日カサンタニ方面ニ到リ大激戦ヲ試ミタルモ效果ナカリト云フ

六日午後ヨリ野水池ノ水尽キコトヲ示ル道ヲ統小全リ



絶ヘタルノ報ニ接ス而シテコトヲ示シテラハ南早天
水及河川ヲ以テ用ルト為シツアリ

戦況視察ノ為メコトヲ示シテ滞在ノ為メ謀本部員
時澤砲兵大尉ヨリ左ノ謀報アリ

一去月三十日カガイテニ来リシ米兵ハハコリカサシ群島
中ニ於テ休養地ヲ示シタルトシテ呂宋、サマール、
ノ水道ヲ通シテ来リシハ休養地ハ多分ハガアヒ又
ハザイ、パレンノ内ニ可シ

二コマリヤナシ島知事及官吏若干ハ捕虜トナリ来
リ目下カガイテニ於テ拘留セラレツクアリ

三数日後ニ米ノ第ニ遠征隊来着スニシテノ風説
アリ兵數五千内騎兵四百有ル由

四米ハ更ニカガイテ占領スニシテノ風説アリ又夕

海軍

海軍

馬尼刺灣口に水雷ヲ布設シ且ツコロンビドール島
ニ九門ノ砲備ヲ為スト云フ

五 茅ニ遠征隊到着迄ハ馬尼刺攻撃ヲ開始セシ
ガルヘシ

六 米ノ陸兵司令官少将フアンデルンシハハチ分ニ遠

征隊ト共ニ来リ着スハキ中將フモリツト氏ノ代理トシ

テ臨時民政廳長ノ職ヲ兼ネタリト云フ

七 アギナルドハ長クカビラレテ留マラサル可シ

右偵知候条御矣々考迄ニ及御前報便也

明治三十年七月三日 参謀本部第三部

陸軍砲兵大尉 山澤 右一

秋津洲艦長 齋藤 寛 殿

一 アギナルドハ提督ヨシエウエートノ同口滑ナラズトノ風

説外人間ニ行ル

一 アギナルドハ米ノ陸兵ノカビテニ止陸スルヲ耐絶セシ

由其他ノ客報ニ據ルニ前風説ハ真ニ近キモノ如シ

二 昨夜アガシタアレン方面ノ守備ニ任セル西班牙ニ我

ニ勇兵ハ士人ニ中隊及徒ニ投セリ

三 アガシバレスヨリニ應援トシテ及徒約二千人ヲ捕キナシ

到着ス

四 アムバガ州ニ於テアムバガ人トハタガロ人ト互ニ戦

闘ヲ始メタリ且ツアムバガ人ハ其一州ヲ以テ獨立セ

ル上ヨリ官ニ言セリ

五 及徒ハ米ニ先ツニアムバガ城攻撃ヲ為サントスル上

ヲ聲言ニシ居レリ

六 米ノヨリテ攻撃ハチニ遠征軍来着後ハ由

右譯報ヲ得候条及御報告候也

明治三十一年七月八日

時澤砲兵大尉

海軍大臣 齋藤實

右譯報中及往ノ進ノ退ニ關スルコトハ外ハ既に香港ノ新聞等ニ記スル所アリ又当地ニ在ケル外人等ノ想像說ニ符合スルト莫クアレシキ事アリ以テ誤ハルカシキナラシ

一外國軍艦

外國軍艦ノ當港ニ在ルモノ前向報告ノ外ニ埃國コルベット(候補生及水兵練習船)フルツベルグ一隻ヲ増加セリ該艦ハ六月廿九日新嘉坡ヲ出發シ本月六月廿日香港ニ着セリ約六日間碇泊ノ後横濱ニ向ヒ航行スト云ヘリ蓋シ埃國皇帝陛下遊辰ノ祝日(八月一日)トシテ此ノ横濱ニ着セシ希聖王ナリト云フ尚ホ他艦船出入ニ關シテハ別紙ニ表

示スルカ如ク

右報告也

明治三十一年七月九日

馬尼刺ニ於テ

秋津洲艦長 齋藤實

海軍大臣 齋藤實

